

横並びを嫌う英国メディア、特オチを恐れる日本メディア

——日本の週刊誌並のことが、日常に見られる羨ましい——

1. 記者さんは偉大な力を持っている

私はひょんなことで、あるテレビ局の記者さんと親しくなり、その記者さんのおかげでずいぶん視野が広くなり、また交渉術や資料の引き出し方など勉強しました。

しかし蚤の心臓の私はその後あまり役に立っていないので、勉強したことは、ブタに真珠だったかも知れません。

ひょんなことというのは、多摩ニュータウンで発掘した縄文時代の遺跡を残そうという運動に関わったことにあります。

発掘調査は他の開発地に比べても充分くまなく行われ、また遺蹟が沢山残せたのは、開発時期が経済が右肩上がりの時期であったためだけではありません。

遺跡調査を行っていた公務員の学芸員達が情報をリークし、その記者さんが各社に情報を提供したりしたので、新聞や週刊誌に書き立てられ、住民運動と一体になったこと。また、時を同じくし都議会でも取り上げられました。

そういう意味ではその記者さんがネタ東になった四人五脚だったような気がします。各社の記者さんが血眼になり特ダネを報じる以上に、歴史を残すという重要な役目を果たしたと思っています。その記者さんは住民運動に少し荷担しすぎたのが、社にばれたのか、整理部に配属になり、腐ってしまい、酒浸りになり、肝臓を壊し、寂しい末期を送っていました。

2. 残念なこと

テレビにしても新聞にしても最近の報道を見ていると、横並びの報道が多くしかも、お笑い番組やスポーツ番組仕立てのものや、政府や警察署のリークを丸投げではないかと思われるものが目に付きます。そういう意味では、週刊誌の方が面白い紙読み応えがあります。

一昨年暮れに、上品な週刊誌がアメリカでは過半数の医学会が、無用な健康診断が行われたり、基準値もいい加減だと疑問視していると報じていました。2年遅れで、日本の医学会も基準値を見直し始めたことや、薬を飲み続けていると認知症になるとか、検査のためにかかって放射線障害になるとも新聞で報じられるようになりました。また、

しかし、我が国の議員さんの口癖は「国民が混乱するから、対策もなく、現状を報道するな！」です。議員さんは、原発事故にしても、公害問題にしても全く同じ姿勢は変わりません。お役人さんも対策のまだ立たないが緊急事態を報道したいが、議員に噛みつかれるので、及び腰になってしまいます。

そこは記者さんの触覚で打ち破って頂きたいモノです。しかし、政府や記者クラブでは報道誘導や申し合わせをやるし、申し合わせを破るのは相当勇気がいります。申し合わせを破るとその記者クラブの出入り禁止になるからです。

タダで省庁の一等地の記者クラブ席を借り、タダ電話を使ったり、それに、毎日のようにたくさんの投げ込みやレクチャーがある中で、どれが重要か見極めるのは、至難の業でしょう。「あなたのところだけよ」という美味しい情報を囁かれるのが日常化しているためではないでしょうか。要約の要約も作ってもらえますし。

各県や市の現場（下級）職員とも、友人友好関係を築けばもっと裏情報が集まるのと思うことは多々あります。

3. 期待すること

新オレンジプランにも毒が含まれていた。“見え消し版”からよく見破って頂けました。拍手喝采です。何頁もある“見え消し版”は一見しただけでは、裏の骸骨は見えないからです。

残念ながら、どの政党も国民の前では正義を振りまくふりをしますが、裏では何を考えているかわかりません。一例を示せば、消費税導入にあれほど反対していた共産党、社会党、公明党などの政党も今は「0に戻せ」ではなく、増税反対です。増税反対はポーズです。本音は賛成なのでしょう。

もう一つよくやる手が、審議不十分で時間切れ、乱闘国会で、議案通過という手口です。

米国のように質問時間は無制限で、何時間質問してよいというわけではなく、我が国では、議会運営委員会ですどの政党は質問時間は何分と決められています。その中には答弁時間も含まれてしますので、安倍首相のようにのらりくらりと時間稼ぎをさせていただきます。結論からいうと、時間切れで野党の思いが通らなかったというのは、野党の言い訳でしか過ぎません。

一事不再理の原則がありますので、同じ議会中には採決が終わった事項は持ち出せませんが、次の議会の時には議論しよかまわないのですが、あれほど反対しておきながら、次の議会の時には、もう諦めた振りをしています。本音が見え見えです。

毎日新聞の西山太吉元記者や宇井純氏のように、政財界や官公庁から嫌われ者とまではいなくても、今後とも“見え消し版”のどこに毒が隠されているか、甘い言葉の部分は、その後どうなっているかを報道してください。外電漏洩事件の時の外務省事務次官は、遺言で政治には必ず裏がある。裏を読めない国民はバカなのだと、言っていました。時の権力者や役人と共に西山氏の下ネタに話をすり替えてしまった記者殿の責任は大きいです。その後も同じパターンを繰り返していますが、反省がないのは日本の国技でしょうか。

見え隠し箇所は、“てにをは”から始まり、意味替えまで各処にあり、多いときは何百もあるので、並の神経では見破れないことは当たり前でしょう。漢字を作った中国黄帝時代の蒼頡のように目は四つ持って、今後とも本音を読み取って下さい。

我々国民は、民主主義とは名ばかりで、水上に出ている氷山の一角しか見られません。今後とも、政治・外交の裏も報道をお願いします。記者さんは、2日間連続徹夜が採用条件だそうですが、くれぐれもお身体を壊さないようになさって下さい。